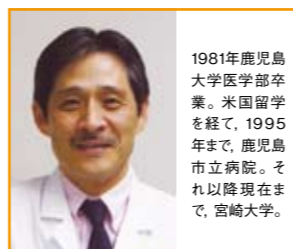


連載 声なき声を聴くために
胎児心拍数モニタリング判読塾

宮崎大学医学部 産婦人科 教授 鮫島 浩



1981年鹿児島大学医学部卒業。米国留学を経て、1995年まで、鹿児島市立病院。それ以降現在まで、宮崎大学。

第12回

早発一過性徐脈の意義 1

早発一過性徐脈 (Hon分類) のパターン認識 (図1)

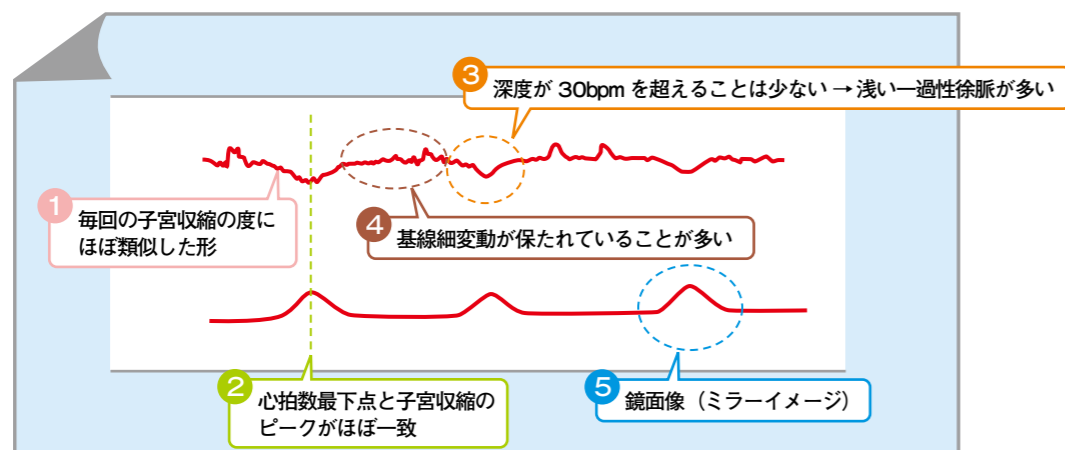


図1 早発一過性徐脈の特徴



1 ほぼ類似 (ユニフォーム) のパターンを示す

早発一過性徐脈は、子宮収縮の度に**ほぼ類似のパターン(ユニフォーム)**で繰り返し出現します。子宮収縮の度に胎児心拍が毎回ほぼ類似する形を示すだけでなく、子宮収縮の圧曲線の形とも類似します。



2 緩徐に低下・上昇し、最下点がほぼ同時

特徴的な点は、心拍数が**緩徐に低下し緩徐に上昇すること(左右が対称的)**と、目で見て判断して、**子宮収縮のピークと一過性徐脈の最下点がほぼ同時に起こること**です。



3 深度は浅いものが多い

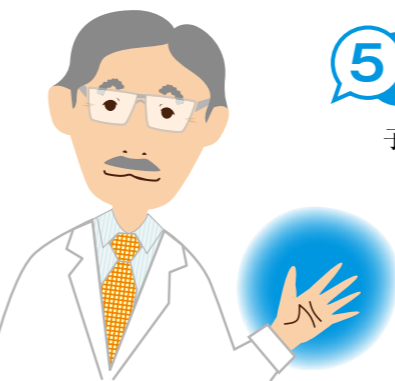
また早発一過性徐脈ではその深度も**浅いものが多い**という特徴があります。基線から一過性徐脈の最下点までの深さは、一般に、20～30bpm前後が多く、それより深いパターンを繰り返すことはほとんどありません。この点が遅発一過性徐脈や変動一過性徐脈と異なる点の1つで、この両者では深度の深いパターンを呈することもあり、重度のアシドーシスを合併する危険性があります。

また、早発一過性徐脈が数時間にわたって出現し続けることも少ないと考えられています。



4 基線細変動が保たれる

分娩中、早発一過性徐脈が出現している間の**基線細変動は、正常範囲内に保たれる**ことが多いという特徴があります。



5 鏡面像 (ミラーイメージ) が出現する

子宮収縮曲線と一過性徐脈曲線が**鏡面像(ミラーイメージ)**となるパターンで出現します。

